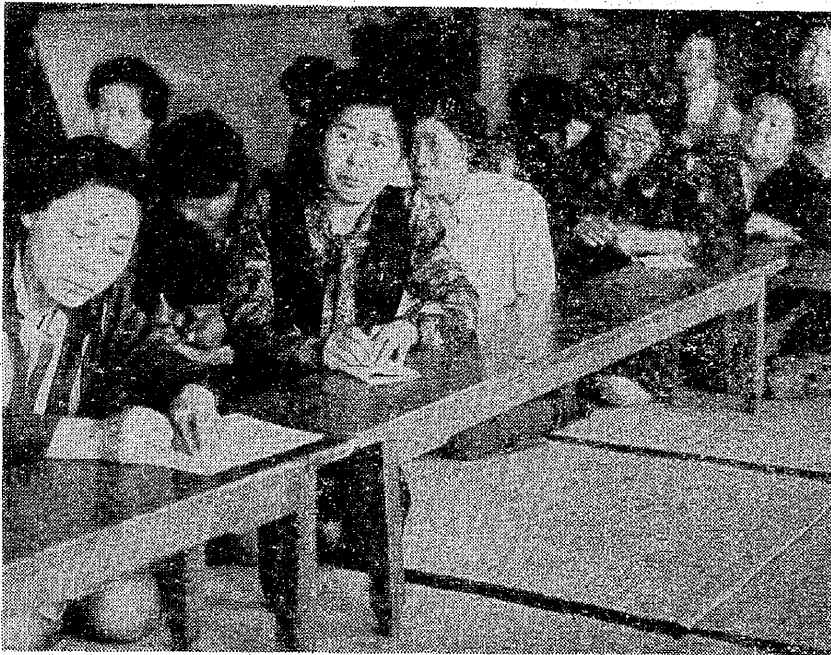


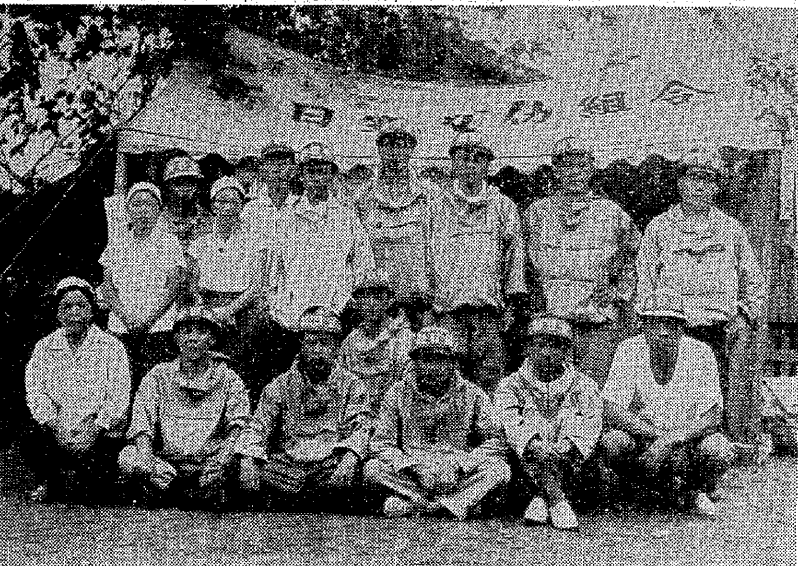
原告団

遺族・CO裁
判、災害責任
追及、特集号

第七十一号



写真左は、入院中の坂上国光さん。人並すぐれた体軀。あれほど親孝行で、妻子思いだった人柄が、いつたどこにいつてしまったのか。今は、ベッドの上で一日じゆう無表情のまま。上は、労災法改正問題について学習中のチヨノさん。廃人となつてしまった夫が、労災補償を打ち切られるかも知れない危機にあることを思えば、ペンをとる手にも力が加わる。(まん中の人)



水俣闘争のとき、オルグとしてかけつけた坂上さん。(まん中の背の高い人) まさか、この人が廃人になるうとは……

原告団レポート

CO患者——
坂上 国光 さん

日記に刻む

十二月二十四日(昨年の)
夫の気分悪し。家のことが気
なるまま出勤する。

何とも我が運命を思いしや
ぐち申すべき。

人ひとりなく

年若い姑や、まだ少年の子供
たちにまで心配させてはいけな
い。私はくやしきくやしきでた
まりない。

以前の夫がなつかしい。

夫は入院

私はくやしきときはいつも、炭
掘り仲間をうたう。それを聞く
と私の心を知らない子供たちは、
「今日は、お母さんがききけん
ね」という。

二十年うたいなれたる

労働歌

今朝も小声で家事にいそしむ

今日はクリスマス。ささや
かながら、ケーキを買って帰っ
た。とても喜んで迎えてくれ
た、子供たち。

闘争のさなかに生れし
吾十二人
見あげるほどに背高くなれり

眠れぬ夜にわく闘志

泣きたくても許されぬ、CO患者の妻

子供の進学にも無反応な父親

市西浜田町釜山社十一棟。

三池闘争真最中の昭和三十
五年七月十八日長男の進学(十六
歳)が、また三池大災害の直前の
三十八年六月二十四日次男の進学
(十三歳)が生れた。いま進学が
県立某高校一年生で、勇君が中学
一年生。

夫国光さんは、打ちつづくCO
中毒の責め苦にいつにこえられ
ず、昨年の秋以来大田地評議病
院に入院。ベッドをわが家として
起居している。

屋——、チヨノさんは市内の一
洋傘店に働きへ。

空しい日日

危い保障

あの日以来、空しい日々を果て
しなく積み重ねてきた——坂上国
光さん。坑内に置き忘れたたの
い。はじめの日記に、「CO患者
か、人間にだけ豊かに恵まれた喜
びを……」と書いていたが、私

消えた面影

右は、三池の主婦の一人——坂
上チヨノさんの日記の抜粋だ。
いうまでもなくCO患者の妻で、
昭和二年一月十日生れたから今年
四十九歳。

昭和二十九年十月十八日のこ
と、そのころすでに三川釜山の坑内
運搬工として働いていた夫国光さ
んと結婚。二十七歳だった。

国光さんは大正十四年八月十五
日生れたから、二十九歳のときの
ことだったが、そのときチヨノさ
んは自分が、こんな非情な運命に
もて遊ばれる身になることなど、
知るよしもなかった。

長男の嘆き

住まいは、結婚して以来大田、
酸化炭素ガス(CO)のなかから

何を聞いても答えてはくれない。
ついに一言も口をきいてくれな
い夫と別れ、私は職場にいそし
仕事する間夫のことが気にな
り、落ち着けな。

私に今許されている願いは、た
だ子供達が、強く、正しく、明る
く育つことだけ。

「災害前、自分はこんなにも世
間知らずのまま過ぎていたとい
のだからか。そんな思ふほど夫
に頼り切って暮らしておったの
です。ほんとに、頼もしい人です
た。それが、いっぺんにこんなに
不幸な身になってしまったん
です。会社は絶対に許せんぞ」
チヨノさんははつと泣いた。
この頃のことである。

許せぬ会社

「災害前、自分はこんなにも世
間知らずのまま過ぎていたとい
のだからか。そんな思ふほど夫
に頼り切って暮らしておったの
です。ほんとに、頼もしい人です
た。それが、いっぺんにこんなに
不幸な身になってしまったん
です。会社は絶対に許せんぞ」
チヨノさんははつと泣いた。
この頃のことである。